

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3170400182
法人名	社会福祉法人 境港福祉会
事業所名	グループホーム タ日ヶ丘
所在地	鳥取県境港市夕日ヶ丘2丁目100番地 (電 話) 0859-47-2277

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1YNT第10ビル207		
訪問調査日	平成19年7月25日	評価確定日	

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 5 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤 4 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.0	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	階建ての 階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 500 円	昼食 500 円	
	夕食 400 円	おやつ 80 円	
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	9 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.33 歳	最低 57 歳	最高 95 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	社会福祉法人 鳥取県済生会境港総合病院、小徳歯科クリニック
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

中海を背景にした造成地の新興住宅街に3年前に創設されたホームである。木がふんだんに使われた明るい設計の建物の中で利用者がゆったりとしたペースで過ごされている。施設長は異業種出身者であるが、ごく当たり前の目線にとらえ、従来慣れがちなケアの現場に新鮮な意見を送り込んでいる。施設長の姿勢を反映して、職員もお互いを補い合いながら利用者へのより良いサービスを目指している。利用者もスタッフの見守られながら、日々の楽しみ、役割の中でごく家庭的な暮らしを送ることが実現している。特に利用者とのコミュニケーションを大切に、手を必ず握ってから服薬支援を心がけるなど、より良いグループホームを目指し実践しておられる。職員の笑顔や明るさも印象的であった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 会議のあり方や表の見直し、記録の仕方、それに伴いチェック表の作成等、前回指摘された介護プランの書類が整備され、職員の努力が伺える。介護プランが日々のケアに反映されるような記録のフォームが確立されつつある。さらに職員間の申し送りが確実に確認されるようさらに意識の徹底が望まれる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 過去の評価や項目についての理解や検討課題に対して具体的に取り組み、改善努力がされている。また、自己評価で取り組みの不十分な項目に対しては、今後取組んでいきたい内容が記入しており、当日の話し合いの中でも意欲が感じられた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1度の運営推進会議では、利用者の状況や新しく建設予定されている隣棟の進行状況等の報告、感染症対策などが討議されている。またサービス向上のために意見や理解を求める取組みがなされている。今後の運営推進会議ではメンバーからの向上に向けた意見を聞きだされると良いと思います。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、毎月の便りや電話、面会時を通じ随時行なわれており、家族アンケートからも安心の声がきかれた。事業所及び市町村の相談窓口の明示がされており、第三者評価委員会の設置、意見箱の活用がなされている。苦情・意見に対し第三者評価委員会にて改善策を検討し、運営に反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ニューファミリーが主な住民である新興住宅地であるが、地域との関係を深めるために根気よく声がけ、工夫の努力がなされている。施設を提供して自治会を開催する取組みも確立されつつある。また毎月の施設内行事において、老人会や歌・踊りのサークルとの交流などが行われており、地域の公民館的役割を担っていききたいとの意向をもって

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で考えた、その人らしく暮らし続けることを支えるという独自の理念をもっている。今後地域密着型サービスとしての事業所の理念に取り組んでゆきたいとの意向である。	○	ホームの立地条件がまだ新しい造成地であるという難しい問題をはらみながらも、地域密着型サービスの意義を職員全員でさらに理解を深め、地域に根差した支援を含んだ理念を検討されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送りの際、理念復唱をし、職員間で共有し、日々のケアにおいて理念が反映されている。		新たな理念も加えながら、今後も取り組んでいただきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会も発足され、ホーム内で自治会を行っている。毎月施設内行事を行い、地域の公民館的役割を担っている。夕日が丘保育園との交流会や地域の方を誘って夕涼み会などの行事に取り組んでいる。	○	新興住宅地で昔ながらの町会というものがないのであるが、地域との関係作りは、今後ホームが主体となって根気よく築きあげてゆかれることが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去の評価や項目についての理解や検討課題に対して具体的に改善に取り組んでいる。前回の課題であった書類の整備など、見直し等がなされていた。		職員全員で自己評価に取り組むプロセスを大切にし、サービスの質の確保に活かされることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議ではホーム側の取り組み状況、感染症対策等についての報告が主となり、メンバーからの改善にむけた具体的な意見は、まだ十分でない。しかしそうした中で、市町村職員のメンバーからは、最近起こった地震をきっかけに市の災害時の体策案を聞く等活発に意見交換がなされていた。	○	会を重ねていかれる中で、情報や報告にとどまらず、話し合いを通じて、意見を聞きだしサービスの向上に努められることを期待します。また利用者の方の参加も検討されることを期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	積極的に施設長自ら市役所に出向き、月ごとの実績報告や最近の情報をさく中で、問題提起をしたりしながら、ともにサービスの質の向上に取り組む、連携を深めておられる。		さらに市にアプローチを続け、連携を強化されることが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の広報紙で行事報告などを行っている。さらに担当者から各利用者の心身の様子や金銭管理を書き家族に知らせている。また来所時や緊急時にはその都度報告がされている。家族が心配するような利用者に関する報告は管理者が一元化して伝えることになっており、身体状況に関する報告は、職員で内容を統一して正確な情報を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所および市町村の相談窓口を明示してある。意見箱の設置、第三者評価委員会の設置や苦情受付窓口の明記を玄関に掲示されおり、家族等に不満や意見を聞くように努めておられる。出された意見は真摯に受け止め、改善をし、全職員で運営に反映されておられた。		家族が意見、苦情を表せる機会は作られている。家族会において家族同士の集まりで忌憚の無い意見を出せるような仕組みを増やしていかれることを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職はあったが、職員の移動は無く利用者との馴染みの関係を大切にしている。2ユニットであるが、利用者や職員の馴染みの関係の支援を重視し異動は行なわれず、担当制をとっている。しかし夜勤時馴染みの関係づくりが必要なので月に1回は隣棟へ勤務する配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修は事業所として稟議を通し受講させる仕組みがある。一般の研修や講座などは、情報提供を行いスタッフの自主性を重んじている。実際には研修に意欲的なスタッフが多く参加の調整がなされることもある。	○	職員の質すなわちホームの質であることを考えると、月ごとに交替制をとるなど工夫しながら、パート職員も交えた職員会議や研修会が望まれる。また折角の研修が共有できるよう努め、人材育成を進めていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年1回の全国認知症G.H.協会による実務者相互研修に参加している。また他のグループホームと交換研修を3日間づつ行い、事業所外の良いところを見聞したり、職員の意見や経験をケアに活かし、サービスの質の向上に努めておられる。		今後地域内のグループホームと互いのスキルアップを目的とした交流機会が予定されているとのことである。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の前に訪問をし、本人や家族と面談をしたり、ホームに見学にきていただくなど、信頼関係を築きながらサービスにいたるまでの関係づくりがなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、支援する側、される側という意識をもたず、傾聴に努めながら喜怒哀楽を共にし、感謝の気持ちを持ちながら、支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートにより本人の意向を把握している。また、日々のかかわりの中で希望に沿うためのアプローチをしている。また、言葉にしづらい思いを汲み取るようにしている。		思いや意向の把握が困難な場合、家族や関係者からの情報を得ることを続けている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映されるようにしており、アセスメントを含め担当を中心に職員全員で意見交換を行い、利用者本意の介護計画が作成されていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを行い介護計画の期間の見直しや、健康状態の変化が見られた利用者の、期間以前の介護計画見直しが書面で確認できた。	○	ケアプランに対して日々職員はどのように関わり、それに対して利用者はどのような様子であったか等ケアの実践、結果、気付きや工夫の個別記録を今後心がけ、見直しに活かしていただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況や要望に応じて、受診介助を支援しておられる。時間のかかる眼科等は施設長自ら行い、比較的時間の短い受診については職員が支援しておられる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回米子中海病院に往診に来てもらっている。また本人や家族の希望される医療機関の受診支援や、嘱託医の往診時には、健康状態や相談内容等を事前にファクスで送り関係づくりを密にしている。結果は随時家族に連絡し、職員も共有できている。また利用時に説明がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた支援のあり方については、本人や家族、かかりつけ医等と話し合いがなされ、方針の共有は図られている。また、夜間対応が可能な医師の確保の問題を踏まえ、本人と家族の希望に沿えるよう早い段階から話し合いを持っている。	○	医療機関との連携を密にしている。状況変化の度に思いの確認をし話し合いを重ねていく事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	色々な場面で、利用者の誇りを傷つけないよう丁寧な言葉かけが行われていた。利用者同士のトラブルに対しても神経をはらって対応している。排泄に関してもさりげなくパッドを片付けるなどの配慮をしている。また、通信に掲載する写真に関して家族に承諾を得る、書類の取り扱いなど個人情報保護について職員が充分理解している。		地域密着型サービスを進める上で、プライバシーとの兼ね合いの困難さは共感できた。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重しながら支援しつつも「寝ていたい」の希望ばかりの利用者は、廃用症候群になるおそれもあるので、生活のリズムを考慮しながら、その人らしい暮らしの支援が出来るだけ行なはれている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に合わせ、野菜の下ごしらえ、盛り付けなどの準備や、下膳や食器洗いなどの後片付けを利用者と職員と一緒に進めていた。また利用者と職員は同じテーブルで会話をしながら食事を楽しんでおられた。	○	献立に利用者の好みを反映しているとのことであるが、さらに外出の楽しみを兼ねた食材の買出しや、外食などの機会を検討されたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニット毎に曜日を決めた入浴体制になっている。利用者が希望すれば毎日入浴、時間外の入浴も可能である。入浴の順番も公平になるようルール作りがなされている。	○	ローテーション勤務で大変と思われるが、楽しみ入浴を職員側が一方的に決めるのではなく、毎日の入浴が各ユニットごとで無理なら、2ユニットの利点を活かし、双方で協力しながら、希望者には毎日どちらかで入浴できることや、時間帯への取り組みも工夫していただきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝え張り合いや喜びのある日々が過ごせる支援がなされ、調査日も洗濯干しや洗濯たたみ、紙おり等を楽しそうにしておられた。	○	さらに一人ひとりの楽しみや役割を見つけたり、場面設定をするなどの支援を続けることが大切と思われる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設長自ら配膳、下膳、受診介助等を行ったり、食事は専門職を雇用することで、職員の負担を軽減し、その時間を利用者にあて、より質の高いケアをして欲しいと望んでおられる。外出もユニットにより好き嫌いがあるが、全体的に少ないことを職員自身も自覚しておられ、天候を見計らいながら、柔軟に日課に対応しながら外出支援をしたいと意見を述べておられた。	○	本人の好き嫌いもあるが、適度な運動は健康な生活を送る上でもかかせられず、重度の利用者も外出困難とみなさず、ストレス発散、五感刺激の活用としても、今以上に外出支援を取り入れていただきたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が日中鍵をかけない支援をおこなっているが、利用者が勝手に鍵をかけてしまうことがある。機会あるごとに鍵をかけないように話し、理解をもとめながら支援されている。ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜の火災を想定し、年2回の火災訓練を行っている。避難経路も整備されている。地域の人々には運営推進委員会を通して協力を働きかけている。また、災害時を想定した場合の行政の支援について市に相談している。	○	振興住宅地でまだ住宅も建設中であつたり、若い核家族の住民であつたり、地域の協力を得ることの困難さの中で、努力しておられるが、災害時は特に地域の協力は不可欠なので、今後も努力をしていただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日チェック表に記録し、不足が見られる時は、補っている。飲み込みの悪い方の刻み食や、糖の高い方への食事の配慮はなされていた。またホームに来てからとろみ食から刻み食へと改善された例もあり、健康面の支援が確保なされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には障子があり、入口のカーテンも個々の好みのものかざられていた。玄関、ホール、廊下は掃除が行き届き、明るく、広く、木の香りが漂い心地よかった。季節を取り入れた壁飾りや花が飾られてあり、居心地よく過ごせるような工夫がみられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、写真を飾ったり、タンスやコタツ等使い慣れた物や、好みをいかして、本人が居心地よく過ごせるような工夫がなされていた。		個人差がみられるので、今後も家族の協力を呼びかけながら、家族の協力の得られない利用者には、職員が工夫をし居室の配慮に努めていただきたい。